

1 研究テーマ

「他者とのかかわりにおいて、適切なコミュニケーション手段で気持ちを表現する力の般化を目指した授業づくり」

2 テーマ設定の理由

本グループは、通常の学級の小学部1年生から4年生までの下学年で構成されている。昨年度は、児童が自分の思いを伝えられる身振り手振りの数を増やす指導方法の研究を重ね、児童の様子を分析するために、ビデオを用いて教師間で授業の振り返りを繰り返し行った。そこから、教師の模倣だけでなく、自分で身振り手振りを考えて伝えようとする姿が増え、教師がそばにいないでも友だち同士のかかわりを広げていくことにつながる授業作りをすることができた。同時に、様々な場面でも思いが伝わるように周囲の児童へのアプローチが必要であることや、伝わる経験を増やすことが課題としてあげられた。

本年度、対象は1・2学年1組の学級集団とし、その中の1名を抽出する。学級の実態は、音声言語でやりとりする児童から、発声や身振り手振りで自分の気持ちや意思を表す児童等、実態に幅があるものの、一緒に活動する友だちに自らかかわろうとする姿が見られる。普段の様々な遊びの時間を通して、友だちのやっていることに興味をもって近寄ったり、遊びを共有したりする様子が見られる。一方で、友だちが使っている玩具や三輪車等を使いたくて、無理に取りに行きトラブルになってしまったり、一人遊びが中心になってしまったりしている様子が見られる。対象となる児童については、学校生活において教師や友だちに自らかかわろうとする気持ちが強いが、自分の気持ちを言葉で伝える前に相手を爪で引っ掻いたり、噛み付いたりすることがある。さらに、やってしまった後にも気持ちが不安定になり、暴れたりして集団での活動に参加できなくなったりすることもあった。入学当初よりは言葉ではっきりと伝えようとする姿も見られるようになり、発語も増えてきているが、発音が明瞭でないため、伝わりにくいことも多い。また、他の児童に比べると、様々な活動中において自分でできることが多いが、他の児童を羨ましがって教師に支援を求めたり、友だちと教師の取り合いをしようとしたりする。

そこで、今回は他者と落ち着いてやりとりができるよう、コミュニケーションスキルの向上を目指した研究を推進する。まず、授業のビデオを見て検証したり、普段の生活の様子を記録したりして、複数の視点から話し合い、行動の理由となる背景や課題を明確にしていく。

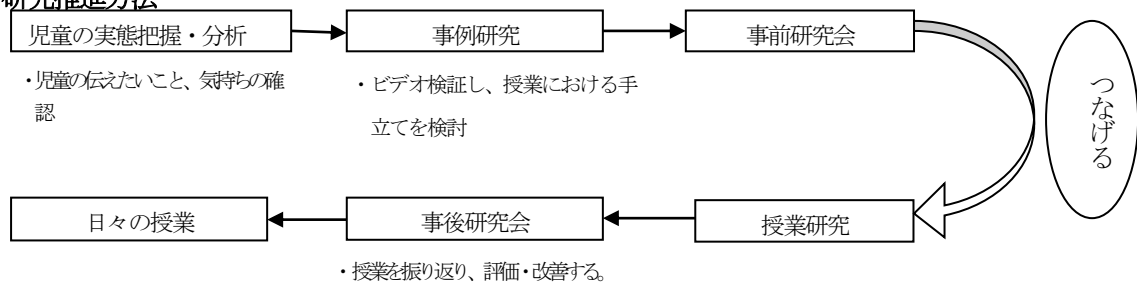
普段の生活や遊びの中で、言葉と身振りを合わせたコミュニケーション手段を取り入れたりはじめ、学校の教育活動を通じて、友だちとの距離感や指先の力加減の意識を高めたりすることで、人との望ましいかかわり方を身に付けられると考える。また、学級全体に授業や生活の中での共通のルールを設け、気持ちが伝わり合う経験を増やしていく。適切に表現できた時は、集団の中で称賛し、振り返りながら定着させていく。他者を傷つけてしまったときは、一人で気持ちを落ち着かせられるように時間を決めて場を設定する。また、教師とのかかわりについては、満足するまでかかわる時間を設けたり、離れていても見ていることを声掛けしたりすることによって心理的安定が図れると考える。さらに、集団の中で係活動や自己有用感(自分が役に立つ)が高まる活動を取り入れ、がんばりを目に見える形として掲示していくことで、他者との良好なかかわりがもたれたり、意欲的に活動に取り組めたりできるようにしていきたいと考え、本テーマを設定した。

3 研究仮説

児童のコミュニケーションの様子を記録したり、授業後にビデオを検証したりして、授業におけるルール作りや様々な手立てを検討していくことで、児童が適切な手段で自分の気持ちを表現する方法を身につけ、コミュニケーションスキルの般化を目指していけるのではないかと考える。

4 研究推進方法及び研究計画

(1) 研究推進方法



(2) 研究計画

5月 テーマ設定・研究計画検討・作成
事例研究

6月 研究計画検討・作成

7月 グループ検討会

9月 事例研究
グループ検討会・指導案の作成・検討

10月 事前研究会、授業研究

11月 事例研究

12月 グループ検討会

1月 グループ検討・研究のまとめ

2月 研究のまとめ (成果と課題)